

宮中の雅を体験

# 雛人形の世界

3月3日はひなまつり。大口町歴史民俗資料館ではただ今「ひなまつり展」(開催期間3月12日(日)まで)を開催中です。丹羽俊尚館長に、知っているようで知らないひなまつりの伝統や意味、人形の種類や歴史について伺いました。



大ひな階段

「毎年この時期は「ひなまつり展」を開催していますね。どのような内容になっていますか？」

主に大口町や近隣住民の皆さんにご寄贈いただいた雛人形を飾らせていただいています。今回の展示では、御殿飾り、親王雛、土雛、雛軸、そしてたくさん七段飾り(屏風飾り)を17段の大きな雛壇に集めた「大ひな階段」のコーナーを設けています。中でも、御殿飾りや親王雛は、大正から昭和中期までに作られたもので、現在では生産されていない貴重なものです。皆さんが普段見慣れている雛人形とはかなり違ったものです。この機会にぜひご覧いただいで、見事な職人技や日本の伝統を感じてほしいです。

「これだけの量の雛人形を一堂に目にするのは圧巻ですが、ひなまつりの行事はいつ頃からおこなわれているのですか？」

中国の三月におこなう「上巳(じょうし)の節句」という行事が平安時代の日本の貴族の子どもたちの遊び「ひいな遊び」と合わさって「ひなまつり」という行事となったといわれています。

元は貴族の行事でしたが、江戸時代に裕福な町民にも広がり、明治には農村にも広がっていききました。江戸時代から大正時代まで作られた親王雛や、さらに昭和中期まで作られた御殿飾りは、天皇后や宮中の人々、御所の紫宸殿(御所の中の公的儀を

執りおこなう場)を模しており、当時の庶民の宮中の雅さへの憧れを感じます。我が子の幸せを宮中の華やかさになぞらえたのですね。今見ても豊かな気持ちになりますね。

「なるほど。宮中を模して作られたと聞くと、どの人形もやんごとなき(高貴な)お顔立ちに感じられますね!ところで、資料館に飾られている大正時代の親王雛は男雛と女雛の左右が逆になっているようですが?」

よくぞ気づいてくださいました。実は、古来の日本では「左方上位」といって左の方が位が高いという伝統がありました。明治に入り欧米の文化やルールを取り入れる中で明治政府が欧米に合わせ「右方上位」の様式を取り入れたため、男性が右側に立つ(向かって左側に立つ)風習へと変化しました。特に、大正天皇が「結婚の儀」で皇后の右側に立たれたことから、皇居のある関東において、「右方上位」の風習が一気に広がったと考えられています。しかし、関西では古来の伝統を守り、かなり後まで左方上位で飾っていたため、向かって右に男雛を飾る風習を「関西式」と呼んでいます。

資料館では、大正時代に作られた親王雛に関しては向かって右に男雛を飾るようにしています。そのような近代以降の西洋文化を取り入れた時代背景にも興味を持っていただけたらと思います。



御殿飾り

### 丹羽館長 おすすめ雛人形を紹介



■御殿飾り  
紫宸殿になぞらえ、天皇后やおそばでお務めをする人々を配置します。実際の紫

「ひなまつり展」には、ぜひ親子で訪れてお子さんの健やかな成長を祝うきっかけにしたいのですが、会期中は、親子で楽しめるイベントなどがありますか？  
はい、簡単に作れる「ひな人形リースを作ろう」や、資料館を回って解くなどときクイズ「時間旅行に挑戦！」を開催しています。いずれも参加無料ですので、ぜひご来場いただき挑戦してみてください。

宸殿にある「右近の橋と左近の桜」もあり、まるでミニチュアドルハウスのような。昭和30年代まで作られていましたが、その後は比較的飾るのが簡単な屏風飾りに押され、今ではすっかり姿を消しました。実際に飾ってみてそれも仕方ないことと納得しますが、とにかく「御殿」を組み立てるのがとても大変。重い木の箱に、御殿のパーツがバラバラにテトリスのように入っています（よって、また元通り片付けるのが至難の業）。そのパーツを取扱い説明書もなしに想像力だけで組み立てます。さらにパーツがデリケートすぎて壊れやすいのも欠点の一つです。中にはどこにはまるのか全くわからないパーツも…。見事御殿ができた時は、感激ひとしおです。昔のお母さんは本当に大変：と、今回組み立てて実感しました。

### ■大ひな階段

全部で220体！元は「七段飾り」という、七段の階段に飾るひと揃い15体の人形を集めたものです。めったにやたら数が多くてもごことなく品があるのが不思議です。

やはりお生まれが違うのでしょうか…？でもこの数やっぱり夜中には出逢いたくないですね！

### ■土人形

素焼きの陶器でできたひな人形です。きらびやかな雛人形とは違ってかわって、顔立ちもごことなく庶民的で親しみがわかります。江戸時代にひなまつりの風習が庶民にも広がったときに、裕福ではない地方や農家で作られるようになりました。この地方では、犬山市や小牧市に生産地がありました。また、大町でも上小口地区で生産されていたという記述が残っています。農家が冬の農閑期に副収入として作って売っていたようです。



土人形